

寄贈図書リスト

天文学入門一星・銀河とわたしたち, 嶺重 慎, 有本 淳一編著, 新書判, 206 p, 1,029 円, 岩波書店

天文学はこんなに楽しい, 縣 秀彦監修, A5 判, 219 p, 1,400 円, 誠文堂新光社
太陽系ビジュアルブック, (株)アストロアーツ編集・発行, A4 変形判, 128 p, CD-ROM 付き, 1,980 円, (株)アスキー

月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切, 翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で jimu@geppou.asj.or.jp 宛。

なお, 原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送り下さい。

人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目に従ってご投稿下さい。結果は必ずお知らせ下さい。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

8. 2005 年 12 月 26 日 (月) 必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 海部宣男
(2) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台理論研究部主任 杉山 直
Tel: 0422-34-3741
e-mail: naoshi@th.nao.ac.jp

10. 封筒の表に「理論研究部上級研究員人事応募書類在中」と朱書きし, 郵送の場合は簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営会議において行います。

国立天文台理論研究部上級研究員

1. 上級研究員 (従来の助手) 1 名
2. (1) 理論研究部
(2) 東京都三鷹市
3. 天文学の理論的研究
4. 全国の理論研究者との関係を保ちつつ, 観測天文学も視野に入れて, 理論天文学の研究を推進する若手研究者を求めます。
5. (1) 決定後なるべく早い時期
(2) 任期 5 年. 5 年後に資格審査の結果, 任期のない主任研究員になることが可能です。
6. 大学院修士課程修了, またはそれと同等以上の方
7. (1) 略歴書, (2) 研究歴 (これまでの研究内容の概要), (3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し, 共著の主要論文には役割分担を記すこと) および主要論文 (3 編以内) 別刷, (4) 研究計画書, (5) 本人について意見を述べられる方 2 名の氏名と連絡先, または推薦書, (6) e-mail アドレス

群馬県教育委員会観測普及研究員

1. 観測普及研究員 1 名
2. (1) ぐんま天文台
(2) 吾妻郡高山村中山 6860-86
3. 光学赤外線天文学
4. (1) 光学赤外装置による観測研究, (2) 観測機器装置の維持管理等, (3) 公共天文台の一般業務, (4) 教育普及業務。
5. (1) 2006 年 4 月 1 日着任
(2) 任期 3 年
6. 大学院修士課程修了またはそれと同等の学力を有する者。
7. (1) 履歴書, (2) 研究業績の概要 (1,000 字以内) および論文リスト, (3) 活動計画 (1,000 字以内), (4) 主要論文別刷
8. 2005 年 12 月 19 日 (月) 必着
9. (1) 〒371-8570 群馬県前橋市大手町 1-1-1
群馬県教育委員会事務局生涯学習課

(2) ぐんま天文台

Tel: 0279-70-5300 Fax: 0279-70-5544

10. 封筒に「観測普及研究員応募書類在中」と朱書き、簡易書留で送付して下さい。応募書類は原則として返却しません。

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果 (前所属)
3. 着任時期

宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部助手

1. 2005年7月 (第98巻7号)
2. 竹内 央 (情報通信研究機構)
3. 2006年3月1日

宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部 高エネルギー天文学研究系教育職

1. 2005年6号 (第98巻6号)
2. 堂谷忠靖 (JAXA 宇宙科学研究本部助教授)
3. 2005年11月1日

研究会・集案案内

京都大学 21 世紀 COE 「物理学の多様性と普遍性の探求拠点」シンポジウム

今年度の京大物理 COE シンポは「光と物理学」をメインテーマとし、①光と基礎物理、②光と物質の相互作用、③光を使った技術革新、の三本柱をたてて、宇宙、素粒子、原子核、物性の多様な世界での物理学の多様性と普遍性を探るとい趣旨で行います。詳しくは、ホームページ

<http://www.2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~coesympo/COE-sympo.htm>

をご覧ください。

口頭講演はすべて招待講演ですが、ポスターの形の一般講演も広く募集します。ぜひご参加下さい。

日時: 2006年2月13日(月)10時~14日(火)17時

場所: 京都大学百周年時計台 (国際交流ホールおよび大ホール)

特別講演: 「光の宇宙と陰の宇宙」

(杉山 直, 国立天文台理論天文部)

「光で探る原子の不思議」

(Tilman Esslinger, スイス工科大学 ETH)

申込み: 参加申込みは、ホームページからお願いします。旅費援助希望、懇親会参加、ポスター発表希望の有無も、申込み時にお知らせ下さい。

参加費: なし

締切: 旅費援助およびポスター発表の申込みの締切は、2005年12月20日(火)。それ以外の方の参加申込締切は、2006年1月30日(月)。

交通: 会場の京都大学時計台には公共交通機関で越して下さい。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/access/kmap/map6r-y.htm>

連絡先: 京都大学基礎物理学研究所共同利用事務室
Tel: 075-753-7008, Fax: 075-753-7010
coesympo@yukawa.kyoto-u.ac.jp

主催: 京大 21 世紀 COE 「物理学の多様性と普遍性の探求拠点」

<http://physics.coe21.kyoto-u.ac.jp/main.html>
京都大学基礎物理学研究所

<http://www.yukawa.kyoto-u.ac.jp>

世話人: 嶺重 慎 (京大基研, 代表), 小貫 明, 田中耕一郎, 高橋義朗, 吉川研一 (京大物 1), 前野悦輝 (国際融合センター), 今井憲一, 福岡将文 (京大物 2), 岩室史英 (京大宇宙), 杉本茂樹, 野尻美保子 (京大基研)

会務案内

日本天文学会 2005 年秋季年会報告

2005 年秋季年会は 10 月 6 日 (木)~10 月 8 日 (土) の 3 日間、札幌コンベンションセンター (北海道札幌市) にて口頭会場 7, ポスター会場 2 を使って開催された。講演件数は口頭講演が 427 件, ポスター講演が 325 件あり, 合計で 752 講演だった。これは過去最高の講演数だった。これに加え, ポストデッドライン講演が 6 件あった。年会参加者は 891 名だった。開催地理事の馬場直志氏のほか, 北海道大学の方々の尽力で極めて順調に行われた。企画セッションは以下の 3 セッションが開かれた。

「中間質量ブラックホールと高エネルギー現象」

世話人: 戎崎俊一 (理化学研究所)・牧島一夫 (東京大学・理化学研究所)・野本憲一 (東京大学)・牧野淳一郎 (東京大学)・鶴 剛 (京都大学)

	10月6日(木)			10月7日(金)		10月8日(土)	
	10:00-12:00	13:00-15:00	16:00-18:30	9:00-11:30	13:30-15:30	9:00-11:30	13:30-16:00
A	戎崎俊一 (理研)	松本浩典 (京都大)	花輪知幸 (千葉大)	米倉覚則 (大阪府立大)	伊藤洋一 (神戸大)	小笹隆司 (北海道大)	上野宗孝 (東京大)
B	太田耕司 (京都大)	梅村雅之 (筑波大)	岡 朋治 (東京大)	西浦慎悟 (東京学芸大)	柏川伸成 (NAOJ)	牧野淳一郎 (東京大)	戸谷友則 (京都大)
C	須佐 元 (立教大)	須藤 靖 (東京大)	山田章一 (早稲田大)	山岡 均 (九州大)	本田敏志 (NAOJ)	青木和光 (NAOJ)	尾崎洋二 (東京大)
D	中村文隆 (新潟大)	大西利和 (名古屋大)	長田哲也 (京都大)	児玉忠恭 (NAOJ)	松下恭子 (東京理科大)	藤田 裕 (大阪大)	鏑木 修 (山口大)
E	岩田隆浩 (JAXA)	野上大作 (京都大)	堂谷忠靖 (ISAS/JAXA)	大須賀 健 (立教大)	福江 純 (大阪教育大)	藤井紫麻見 (日本大)	蜂巢 泉 (東京大)
F	永田伸一 (京都大)	増田 智 (名古屋大)	末松芳法 (NAOJ)	水野恒史 (広島大)	中川貴雄 (ISAS/JAXA)	林田 清 (大阪大)	片岡 淳 (東京工業大)
G	沢 武文 (愛知教育大)	高見英樹 (NAOJ)	小林尚人 (東京大)	菅井 肇 (京都大)	本間希樹 (NAOJ)	杉本正宏 (NAOJ)	半田利弘 (東京大)

「軟ガンマ線リピーターとマグネター」

世話人: 寺沢敏夫 (東京大学)・河合誠之 (東京工業大学)・柴崎徳明 (立教大学)

「アーカイブデータで拓く天文学」

世話人: 大石雅寿 (国立天文台)・平井正則 (福岡教育大学)・藤原智子 (九州大学)・山岡 均 (九州大学)

また、ジュニアセッションが秋の年会恒例でポスターのみで実施された。

座長は上表の49名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示す(敬称略)。

〈記者会見〉

秋季年会の前日、10月5日14:00から、かでの2・7にて行われた。祖父江義明理事長より挨拶の後、以下のトピックスについての解説が行われた。5社の報道機関の出席があった。

●研究発表

(1) 太陽系外惑星の公転軸はちょっぴり傾いていた
記者会見出席者:

須藤 靖 (東京大学)

関連する講演番号: P76a, P71a, P72a

(2) 衝突合体中の銀河で超高速分子ガスを発見!
—巨大ブラックホールの周囲を回るガスか?—
記者会見出席者:

高野秀路 (国立天文台), 中井直正 (筑波大学)

関連する講演番号: R64a

(3) 「はやぶさ」探査小惑星イトカワの現在・過去・未来

—そのNEOとしての性質と地球衝突の可能—

記者会見出席者:

吉川 真 (宇宙航空研究開発機構)

関連する講演番号: L04a

●地元の活動紹介

(4) 北海道大学 11 m 電波望遠鏡本格始動

記者会見出席者:

徂徠和夫, 羽部朝男 (北海道大学)

関連する講演番号: V116a, V117c

●教育

(5) 若手研究者のワクワクを市民に届ける“天塾”
—大学院生による天文学講座の開設とビデオ・オン・デマンドへの展開—

記者会見出席者:

内藤誠一郎, 花山秀和, 平松正顕 (東京大学)

関連する講演番号: Y05b

●公開講演会「アインシュタインと宇宙: 宇宙から時間空間はどうわかるか」お知らせ

〈天文教育フォーラム〉

天文教育普及研究会との共催による天文教育フォーラムが、10月7日の総会前(15:30~16:30)に、「就職: 採用する側とされる側のミスマッチ—こんな人材がほしい2」というテーマで行われた。今回のフォーラムは2003年秋のフォーラムの続編である。今回は比較的小さな組織の話をしていただいたのに対し、今回は大きな組織の方に基調講演をしていただいた。東京大学の須藤 靖氏には大学での教育や研究についての実状を、JAXAの松岡 勝氏には一般研究とプロジェクト研究の人材像を、国立天文台の海部宣男氏には、天文台での雇用の実情と、若手研究者の将来について語っていただいた。司会は大阪教育大学の福江純氏にお願いした。約320名の参加者があり、立ち見

もでる盛況ぶりだった。このことからこのテーマに関する関心の高さがうかがえた。総会前の1時間という枠内であったため、十分な議論の時間がとれなかったが、フォーラム終了後も関係者に就職に関する意見や質問が寄せられた。(坪井陽子, 山縣朋彦)

〈公開講演会〉

講演会のタイトルは、「アインシュタインと宇宙—宇宙から時間空間はどうわかるか—」で、10月9日(日)14時より札幌コンベンションセンター(札幌市)で開催された。井上 一副理事長(宇宙航空研究開発機構教授)の挨拶の後に、まず土居 守氏(東京大学助教授)の講演「宇宙の膨張を測る」が行われた。相対性理論と宇宙項をテーマに、銀河の種類と距離、年代の関係を多くの写真を添えて説明し、また宇宙の距離を測る原理をプリズムの紹介を交えて説明するなど、大変分かりやすい講演であった。休憩後には、佐藤文隆氏(甲南大学教授, 京都大学名誉教授)の講演「世界物理年2005」のタイトルで講演が行われた。この講演は、天文学会の世界物理年記念イベントの一つとして位置づけられており、アインシュタインの赤ちゃん時代の写真から始まった講演はアインシュタインの業績のほかに、なぜ他のノーベル賞受賞者と異なってこれほど著名になったかについて、歴史と数多くのエピソードを添えて語られ、一般参加者のみならず研究者にも興味深い内容であった。それぞれの講演の後には活発な質問が出、講演会終了予定時間を過ぎても参加者が質問に並ぶなど、終始時間を感じさせない熱気にあふれた公開講演会であった。今回はこれまでの公開講演会場で最も広い会場で行われたが、事前に広報が行き届いたことと、「アインシュタイン」が一般の人にも知られていることも手伝って、入場者数は過去最高の420名であった。(田 光江)

〈通常総会〉

「通常総会報告」(845頁)を参照。

〈懇親会〉

懇親会は10月7日(金)18:30~20:30に、ピアケラー札幌開拓使において開催された。参加者は418名であった。理事長の祖父江義明氏による挨拶、北海道大学を代表して長田義仁副学長による歓迎の挨拶などの後、海部宣男氏音頭による乾杯で始まった。懇親会中に次回開催地を代表して和歌山大学の富田晃彦氏による挨拶があった。

〈保育室〉

保育室はコンベンションセンター内の授乳室を使用した。7家族、子供9名の利用があった。保育者の派遣は(株)コティに依頼し、年会実行委員会側は田村隆幸氏が担当をした。準備にあたっては北海道大の徂徠

和夫氏、国立天文台の梅本智文氏にご協力いただいたことを感謝する。

〈企画セッション報告〉

「中間質量ブラックホールと高エネルギー現象」

企画セッション「中間質量ブラックホールと高エネルギー現象」は初日の10月6日の午前10時から始まった。午前中は高光度エックス線源(ULX)が中間質量ブラックホールであるかどうかについての議論が白熱した。また、ガンマ線バーストと極超新星との関連が議論された。さらに、これらと巨大質量星の形成、進化についての理論モデル、元素合成との関連も議論された。また、午後には、中間質量ブラックホールの形成と巨大ブラックホールへの進化の理論モデルと星団や銀河における観測事実があわせて議論された。開始当初から参加者が140名を超え、セッション終了時点でも100名を超える盛況であった。「久しぶりに興奮したセッションだった」とのコメントを聞いた世話人もおり、大きな成功を収めたものと世話人一同考えている。(戎崎優一, 牧野淳一郎)

「軟ガンマ線リピーターとマグネター」

軟ガンマ線リピーター(SGR)、異常X線パルサー(AXP)の正体は超強磁場中性子星(マグネター)とされている。2004年末、マグネターの一つSGR1806-20に巨大フレアが発生し、太陽フレアからよりも強い史上最大強度のガンマ線が地球周辺の空間を襲った。放射源が約10kpcの距離にあることを考えると、ガンマ線放射(等方換算)は瞬間的にキューサー光度並みの10の47乗 erg/s に達したと推定される。本セッションはこの特筆すべきイベントに関する研究の現状を概観すべく、レビュー講演3件(SGR観測, 巨大フレア, マグネター)、一般講演14件(うち、衛星観測6件[Geotail, Swift, HETE2, ASCA], 地上観測3件[野辺山, 神岡, すばる], 理論5件[フレア火の玉創造・ジェット, クォーク星構造, マグネター誕生])から構成された。マグネター特有の問題、通常のガンマ線バーストGRBとの類似点・相違点、特に短いGRBとの関係について活発な議論がなされた。さらに、巨大フレアの高エネルギー宇宙線源、ニュートリノ源としての検討、火の玉創造の磁力線リコネクションモデルの提案など新しい共同研究が始まる機運が感じられた。会場はほぼ満員の盛況であった。

(寺沢敏夫, 河合誠之, 柴崎徳明)

「アーカイブデータで拓く天文学」

多様な質と種類のデータを扱う天文学研究が盛んな現在、データベース化されたアーカイブをどのように活かし、どのような研究成果を上げ、今後の研究がどう発展するか紹介、議論する目的で本企画セッション

を開催した。

セッションは10月7日(金)午前に行われ、「アーカイブデータ」をキーワードに幅広い分野の研究発表がなされた。世話人の予想を上回る数の講演申込みがあり、時間的制約から残念ながら講演形式の変更をお願いした講演もあった。当日は、口頭講演13件(基調講演2件含む)、ポスター講演11件の研究成果が報告され、会場は聴衆で満員となった。基調講演は、観測データのデータベース化と変光星搜索への応用について吉田誠一氏に、歴史的文献を使った彗星や流星研究について長谷川一郎氏にそれぞれお願いした。一般講演も、変光星・突発天体、日食・オーロラ現象、銀河など幅広い分野の講演があり、世界の流れとなりつつあるヴァーチャル天文台に関する発表で幕を閉じた。全体として極めて有意義な議論が展開され、盛会であった。

歴史的資料も含め、アーカイブデータは天文学研究にとってなくてはならない存在になりつつある。これらは今後さらに重要視されるべきであり、深い議論や研究成果報告ができる機会が増えることを世話人一同願っている。最後に講演をして下さった皆様、ご参加頂いた皆様に深く感謝する。(藤原智子)〈ジュニアセッション〉

秋の年会なので、ジュニアセッションとしては、ポスター発表のみを募集した。3件のポスター発表があったが、発表の内容は、小惑星の多色測光、恒星スペクトル、そして、M42の輝線強度分布観測についてであった。対象天体は異なるが、偶然にもすべて分光に関する観測についての発表となった。どの発表も、熱心に研究されたものであった。今回は、ポスターの掲示のみで生徒の参加はなかったが、ポスターを見た人にコメントを書いてもらうようにした。なお、発表の内容は、次回の春季年会時のジュニアセッション予稿集に掲載する予定である。(吉川 真)
(年会実行委員長: 百瀬宗武)

【理事会議事録】

日 時: 2005年10月6日(木) 12:00~13:40
場 所: 札幌コンベンションセンター1階 会議室1
出席者: 祖父江, 黒田, 花岡, 杉山, 北本, 関井, 蜂巣,
百瀬, 田, 成相, 馬場, 富田, 浅田
欠席者: なし
有効委任状提出者: 井上, 和田
ほかに、東條事務長が出席した。
議 長: 祖父江義明
署名人: 杉山 直, 花岡庸一郎

報 告

1. 前回議事録の確認(資料1)
花岡理事より前回(2005年7月2日)の理事会議事録が報告され、原案どおり承認された。
2. 開催中の年会について
百瀬理事より開催中の年会について、過去最大となる752件の講演で順調に進行中である旨報告があった。これに先立って10月5日に記者会見を「かでの2.7」にて報道機関5社の参加を得て開催した。
3. 中教審への要望書一次代をになう子どもに豊かな科学的素養を—(資料2)
祖父江理事長より上記学会声明を中教審の会長および初等中等教育分科会長宛てに送ったとの報告があった。これについては7月22日に記者会見も行っており、すでに記事としても取り上げられている。
4. その他
 - (1) 教育フォーラムについて
祖父江理事長より、教育フォーラムの内容が教育委員会の中のみで決定・了解されていて、理事長・理事会として把握できない状態にあるので、改善したいとの提案があった。教育委員会は将来の教育フォーラムのテーマの案を理事会で承認を得るべきである、あるいは少なくとも報告をすべきである、同じ年会行事でも特別セッションは理事会に意見を求めているので同じレベルの対応ができないか、まずメールで案を流して同意を得てはどうか、などの意見が出された。結局、教育委員会はその決定を理事会に報告する、たとえば6月に決定するのであれば7月の理事会に報告するものとする、ということになった。
 - (2) 東アジア天文台会議出席について
9月21日に国立天文台にて東アジアの中核天文台が集まる会議が開催され、東アジア地域の天文学協力を進めていくことの合意について調印が行われた。日本天文学会代表として祖父江理事長がこれに出席、スピーチを行った旨の報告があった。
 - (3) 天文オリンピックについて
花岡理事より、科学振興事業団の援助を得て2名がオブザーバーとして今年の天文オリンピック(10月末~11月初め、北京にて)に参加することになった旨報告があった。
 - (4) 講師派遣データベース登録進捗状況
田理事より、現在データベースへの講師の登録をお願いしているところであり、現在までに

60件の登録があるが地域的に関東にかたよるなどまだ不十分な点がある、との報告があった。今後はデータベースを使ってもらうことを進めていきたい、とのことである。

(5) 講演謝金

北本理事より、現在1万円としている公開講演会等の講師に対する謝礼について、あまり安いのもかえって問題があるのではないかという指摘があるため、3万円に値上げしたい、との提案がされた。理事会としては承認し、本年会の公開講演会から適用することとなった。

(6) サイエンスカフェについて

杉山理事より、本年会にあわせて「サイエンスカフェ札幌」が北海道大学科学技術コミュニケーターユニット主催で開催されることについて紹介があった。研究者をゲストに招きコーヒーを飲みながら語り合うという趣旨であり、今回は天文学会も後援している。

議 題

1. 新入会員の承認 (資料3)

花岡理事より資料に基づき新会員の報告があり、入会が承認された。

2. Asian-Pacific Journal について (資料7)

蜂巢理事・祖父江理事長より、アジア太平洋地域各国の天文学雑誌を統合して新たに Asian-Pacific Journal を立ち上げる構想が出されている件について、ジャーナルワーキンググループ委員長の H. M. Lee 氏より正式にスケジュールの提示と日本天文学会として検討するよう依頼があったことについて報告があった。Lee 氏側は今年中に letter of intents の返事もらい、最終的に 2009 年に発刊というスケジュールを想定している。日本天文学会としての関わり方について、PASJ 編集顧問からは、PASJ も発行を続け Asian-Pacific Journal の編集にも参加してはどうかという意見が出されている一方、PASJ 編集委員会では二つの雑誌に真剣に取り組むのは大変である、PASJ を発展的解消 (PASJ を Asian-Pacific Journal へ拡大) するくらいのつもりで参加すべきである、という意見が多かったとのことである。

Asian-Pacific Journal のより具体的な計画について祖父江理事長が問い合わせを行っているが、その回答によれば金銭的なことなどあまり真剣に考えられていないのでは、などとの指摘があった。PASJ を Asian-Pacific Journal へ統合した場合、学会としての存立基盤を失わないか、PASJ から読者を引き継ぐことが可能か、などいろいろな検討点の指摘もあった。いずれにせよ学会が PASJ と Asian-Pacific

Journal の関係をどう考えるかで Asian-Pacific Journal の内容が大きく左右されるというのが共通認識であり、学会としての態度をあきらかにするため真剣に議論を行っていく必要がある。次回の理事会までに PASJ 編集委員・顧問、学会の理事・評議員などを含むメーリングリスト等で議論を進めることとなった。

3. 年会実行委員の増員 (資料4)

百瀬理事より、保育室担当を想定して梅本氏に新たに年会実行委員として加わってもらう旨提案があり、承認された。保育室担当は、保育室使用の申込みをもとに、業者の手配など実際の運用を行うのが仕事である。

4. 年会講演数増加への対応 (資料5)

百瀬理事より、今回の年会でも講演数が過去最高となるなど講演数が大変多くなってきており年会を3日間・7会場並行で行うのは無理になりつつある、対策としては会場の並列度の増加・日数の増加・講演時間短縮・全体セッションの並列化などの案があるが、今後の年会ですでに日程が決まっているものについては並列度の増加がもっとも適当な対策であろう、との報告があった。さらに長期的な対策についてはこれから議論する必要があり、次回理事会へ向けて検討を続けることとなった。懇親会についても、現在のようなやり方で開催地理事が引き受けては大変である、との指摘があった。

5. 早川幸男基金について

評議員会で、現在の早川基金の支給の仕方について検討をしてみる余地があるのでは、という指摘があったのを受けて、早川基金委員会で議論が行われ、新たに提案が行われていることについて花岡理事より報告があった。理事会としては評議員会等での議論を待つこととなった。

6. 夜空を守るため高速道路上向き照明の禁止についての要望書 (資料6)

祖父江理事長より、「高速道路における上向きサーチライトによる照明禁止の要望」の文案について紹介があった。要望書案を評議員会に諮ることとした。

7. その他

(1) 講師派遣キャンペーン広報経費について

田理事より、講師派遣データベースを宣伝し活用を促進するため、科学館等向けのパンフレットを作成し配布したい旨提案があった。カラーのリーフレットのなものよりも公的な文書として整ったものの方が適当では、という指摘があった。また、講師派遣関連のウェブページ

などについて改善点の指摘があった。

(2) 次回以降の理事会日程

今回は 2006 年 1 月 14 日 (土) 11:00 より国立天文台 (三鷹) で開催, 次々回は 2006 年春季年会中に開催する。

205 年 10 月 27 日

議長 祖父江義明 ㊤

署名人 杉山 直 ㊤

署名人 花岡庸一郎 ㊤

【評議員会議事録】

日時: 2005 年 10 月 7 日 (金) 12:30~13:40

場所: 札幌コンベンションセンター 1 階 会議室 1

出席者: 井上, 太田, 岡村, 海部, 小山, 柴田, 須藤, 千田, 高橋, 舞原, 牧島, 家, 梅村, 大橋, 谷口, 観山, 山本 以上 17 名

有効委任状提出者: 吉井, 安東, 池内, 小杉, 佐藤 以上 5 名

欠席者: 高原, 福井 以上 2 名

他に理事会から, 祖父江理事長, 黒田副理事長, 花岡, 杉山, 北本, 関井, 百瀬理事, および東條事務長が参加した。

議事に先立ち, 議長および署名人を選出した。

議長: 梅村雅之

署名人: 小山勝二, 谷口義明

報告

1. 前回議事録の確認 (資料 1)

花岡理事より前回 (2005 年 7 月 9 日) の評議員会議事録が報告され, 承認された。

2. 開催中の年会について

百瀬理事より開催中の年会について, 講演数は 752 件で過去最高であり, 参加者は 900 名に迫る勢いである, 大変盛会で順調に進行している, という報告がされた。

3. 中教審への要望書一次代をになう子どもに豊かな科学的素養を一 (資料 2)

祖父江理事長より上記学会声明を中教審の会長および初等中等教育分科会長宛てに送った, これについては 7 月 22 日に記者会見も行った, との報告があった。最新の天文学的成果を子どもに伝えられるよう要望するものである。

4. 年会実行委員の増員 (資料 3)

百瀬理事より, 保育室担当を想定して梅本氏に新たに年会実行委員として加わってもらうことについて理事会で承認された旨報告があった。

5. その他

(1) 東アジア天文台会議について

海部評議員より, 東アジアの中核天文台による天文学協力についての会議が国立天文台で開催され, 今後東アジアにおける天文学の発展に重要な貢献が期待される, との報告があった。

(2) 日本学術会議 (総会・部会が 10 月 3~5 日) の報告

海部評議員より, 学術会議について, 組織の大きな変更が予定されていること, メンバーを学協会から推薦する従来の形から会員・連携会員を個人として選ぶような形になること, が報告された。天文研連に代わるものとして, 物理学委員会の分科会として天文関係で分科会をもてないかという案を持っているが, すぐに機能するものが作れるかどうかは不明である, ただ国際対応など急ぎの対応を考えなければならない場合の対策は別に考えている, とのことである。いずれにせよ学術会議に対する学会の役割が小さくなる方向である。

(3) 天文オリンピックについて

花岡理事より, 科学振興事業団の援助を得て 2 名がオブザーバーとして今年天文オリンピック (10 月末~11 月初め, 北京にて) に参加することになった旨報告があった。

(4) 「すざく」衛星について

井上評議員より, すざく衛星の現状について, マイクロカオリメーターは不調であるものの, X 線望遠鏡・CCD カメラのシステム, 硬 X 線検出器は順調である旨報告があった。改めてすざくによる公募観測の募集のアナウンスをするとのことである。

(5) 内地留学奨学金受給者

2006 年度内地留学奨学金受給者が決定されたことについて花岡理事より報告があった。

(6) 講演謝金について

北本理事より, 今まで 1 万円であった公開講演会等の講師への謝金を, 評議員会からの意見等に基づき, 3 万円に値上げした, との報告があった。

(7) 世界天文年について

海部評議員より, 2009 年を世界天文年とするという提案がされていることについて, ユネスコにこの提案が提出されており, 制定へ向けて前進中である旨報告があった。

(8) 男女共同参画連絡会について

黒田副理事長より, 3 名が天文学会側の担当

者となって活動を開始している、夏休みの女子
 高生夏の学校に天文学会としてブースを出し
 てポスターを掲示した、残念ながら担当者が直
 接参加することはできなかったがハワイの林
 左絵子氏とチャットをしてもらった、運営委員
 会にも参加している、との報告があった。もっ
 と女性の担当者を入れたい、とのことである。

(9) 科研費データベース

家評議員より、作成中であった科研費デー
 タベースについて、1985年以降の分についてほぼ
 完成に至った、次回の評議員会あたりでデー
 タの分析結果も提示したい、との報告があった。

議 題

1. 早川幸男基金について

評議員会で、現在の早川基金の配分方法について
 再検討をしてみる余地があるのでは、という指摘が
 あったのを受けて、早川基金委員会で議論が行われ、
 新たに提案が行われていることについて意見交
 換を行った。支給対象として滞在費やレジストレー
 ションなども考慮の対象ではないか、学振研究員の
 扱いや、支給されたことのある人が再度申請した場
 合の扱いをどうするのか、などという意見が出され
 た。また天文財団でも援助をしており、早川基金側
 のルールとの関係も明確にすべき、との指摘もあ
 った。今後委員会では、変化しつつある現状をじっ
 くり見つつ、できるだけ多くの若手に出張してもら
 うという趣旨に従って、あるべき姿の議論を行って
 いくこと、となった。

2. 年会講演数増加への対応 (資料4)

百瀬理事より、年会での講演数が大変多くなっ
 ており年会を3日間・7会場並行で行うのは無理に
 なりつつある、対策としては会場の並列度の増加、日
 数の増加、講演時間短縮、全体セッションの並列化
 などが考えられる、との報告があった。懇親会につ
 いても、現在のようなやり方で開催地理事が引き受
 けては大変である、との指摘があった。これとは別
 に、準会員は会費が安いにもかかわらず正会員
 と同じ資格で発表ができるためその扱いの再検討の
 必要性が指摘されているが、特に今回準会員の発表
 の割合が増えている、との指摘もあった。年会の方
 式については、あまり並列度を上げないほうがよい
 のではないか、合同セッションのようなことをでき
 ないか、ポスターをもっと活用できないか、ポス
 ター3分講演の扱いは見直す必要はないか、など
 という意見が出された。なお、銀河と高密度天体の
 セッションは現在規模が大きくなりすぎているため
 次回から分割の予定、とのことである。

3. Asian-Pacific Journal について (資料5)

祖父江理事長より、新たな天文学学術雑誌として
Asian-Pacific Journal を発刊する構想がある件につ
 いて、ジャーナルワーキンググループ委員長の **H.**
M.Lee 氏より正式に具体的なスケジュールの提示
 と検討の依頼があったこと、具体的内容についての
 問い合わせをしていること、今年中に **letter of in-**
tents の返事をもらいたいと言ってきていること、
 について報告があった。日本天文学会として **Asian-**
Pacific Journal にどうかかわるのか、**PASJ** との関
 係をどうするのか、について、**PASJ** 編集委員会
 では、両方に真剣にかかわるのは大変である、**PASJ**
 を発展的解消 (**PASJ** を **Asian-Pacific Journal** へ
 拡大) するくらいのもりで参加すべきである、と
 いう意見が多かった、との報告があった。**PASJ** 編集
 顧問からは、**PASJ** と **Asian-Pacific Journal** 両方に
 学会としてかかわってはどうか、という意見が出
 されている。**Lee** 氏が具体的にどのようなことを想定
 しているのか本人が日本に来たときに直接議論で
 きないか、ジャーナル出版とはどういうものか **PASJ**
 の実情をもっと知ってもらってはどうか、などの意
 見が出された。**PASJ** 編集委員会、顧問、理事会、
 評議員会でこれについて引き続き検討していくこと
 となった。

4. 夜空を守るため高速道路上向き照明の禁止につ いての要望書 (資料6)

祖父江理事長より、星空を守る会と協力して作成
 している「高速道路における上向きサーチライトに
 よる照明禁止の要望」の文案について紹介があ
 った。要望書は出す相手によってそれぞれ適切な内
 容になるように変えてはどうか、エネルギーの無駄
 という点を強調すべきでは、という意見が出された。

5. その他

(1) 評議員の任期満了

祖父江理事長より、評議員のうち今年末で任
 期満了となる方に対して挨拶があり、また来年
 から新たに評議員になる予定の方について紹介
 された。

(2) 次回以降の評議員会日程

今回は2006年1月28日(土)11:00より国
 立天文台(三鷹)で開催、次々回は2006年春季
 年会中開催する。

2005年10月27日

議 長 梅村雅之 ㊟
 署名人 小山勝二 ㊟
 署名人 谷口義明 ㊟

【2005 年度秋季総会議事録】

日 時: 2005 年 10 月 7 日 (木) 16:30~18:00

場 所: 札幌コンベンションセンター 2 階 204 号室
(B 会場)

議事に先立ち出席者の確認がなされた。事前投票総数(会場参加者との重複は除く)は 498 名、会場参加は 136 名、有効委任状提出者 1 名である。出席者のうちで事前投票をしたものは、事前投票の方を無効とした。有効出席者総数は 635 名で、定足数(正会員総数 1,647 名の 5 分の 1=330 名)を満たしていることを確認した。

次に署名人として福島登志夫氏、阪本成一氏が選出された。

議事の経過および結果

1. 花岡理事が資料に基づき、2006 年度事業計画案の説明を行った(第 1 号議案)後、質疑応答が行われた。
2. 北本理事が資料に基づき 2006 年度収支予算案の説明を行った(第 2 号議案)後、質疑応答が行われた。
3. 花岡理事が、第 16 期評議員候補者について説明を行った(第 3 号議案)後、質疑応答が行われた。
4. 第 1 号議案、第 2 号議案、第 3 号議案は各々賛成多数で承認された。

報告事項等

1. 100 年史編纂委員の増員
花岡理事が、富田良雄氏(京都大学)を 100 年史編纂委員に加え、全体で 11 名としたことについて報告を行った。
2. 年会実行委員の増員
花岡理事が、梅本智文氏(国立天文台)を年会実行委員に加え、全体で 10 名としたことについて報告した。
3. 中教審への要望書一次代をになう子どもに豊かな科学的素養を—
祖父江理事長より、上記の要望書を提出した件について報告がされた。

4. その他

- (1) Asian-Pacific Journal について
祖父江理事長から、新しい天文学術雑誌として Asian-Pacific Journal の刊行が計画されていることについて全体の経緯について説明があり、今後日本天文学会としての関わり方について議論を進めたい旨報告があった。
 - (2) 年会セッションの分割について
百瀬理事より、年会での銀河と高密度天体のセッションが巨大化しており 3 日に収まらない可能性が出てきたため、次回以降の年会においては分割する予定である、との報告があった。
 - (3) 天文功労賞推薦募集の呼びかけ
山岡天体発見賞選考委員長より、天体発見以外で功労のあった方をたたえる天文功労賞への推薦を募集しているので、ぜひ応募いただきたい旨呼びかけがあった。
 - (4) 「すざく」衛星について
井上副理事長より学会からも支援のあったすざく衛星について、打ちあげが成功したことのお礼と報告があった。XRS に一部不具合があった点については原因究明に努めているが他は順調であり、改めて公募観測の案内を出すとのことである。
 - (5) East Asian Young Astronomers Meeting
東京大学の米原厚憲氏より来年日本で開催される表記の会議について案内があり、若手への参加呼びかけがされた。
 - (6) IAU 新会員について
国立天文台の福島登志夫氏より、来年の IAU 総会へ向けて、学位取得後数年程度の研究歴の方を対象に新会員が募集される予定であるとのアナウンスがされた。
 - (7) その他
国立天文台の谷川清隆氏より、100 周年を迎える学会にふさわしいレビュー雑誌の定期的な刊行を始めてはどうかとの発言があった。理事会で検討することとなった。
- 2005 年 10 月 27 日

議 長 祖父江義明 ㊟
署名人 福島登志夫 ㊟
署名人 阪本 成一 ㊟

(社)日本天文学会へ2005年7月3日から10月6日までの間に入会された方、退会された方をお知らせします。

正会員入会者 (11名)

井上 諭	広島大・大学院 (在学)/海洋研究開発機構	皆口裕樹	東京大・大学院理 (在学)
正寶定文	放送大佐賀学習センター/日本宇宙少年団武雄支部	正木愛子	信州大・理修士終了
杉原 将	宮崎大・大学院 (在学)	原 孝幸	早稲田中・高校
坂井道成	京都大・大学院理 (在学)	藤 博之	北海道大・大学院理・物理
安藤襄一	大阪大卒	中村智一	名古屋大・大学院理 (在学)
		関根宗成	(株)サイバード (東京大・文学部卒)

準会員入会者 (2名)

鷺見治一	University of California	寺家孝明	国立天文台
------	--------------------------	------	-------

移籍会員

[準→正] (1名)

馬場大介 名古屋大・大学院理 (在学)

正会員退会者 (7名)

白浜公平, 一ノ瀬康裕, 加藤陽平, 佐藤伸二, 高野晴子, 衛藤 茂, 山崎 徹

事務局だより

2006年より年会予稿集が1冊1,000円となります。

なお、予稿集を予約している方は、年間予稿集代金2,000円を会費に加算してご送金下さい。

和田桂一(編集長), 今西昌俊, 亀野誠二, 齋藤正雄, 寺田幸功, 濤崎智佳, 戸谷友則, 洞口俊博, 増田 智, 矢野太平
平成17年11月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社
定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
Tel: 0422-31-1359 (事務所)/0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

©社団法人日本天文学会 2005年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)